



ふなばし 国際交流協会ニュース

<第 37 号>

2007 年 11 月 ●● 日発行

今年は協会設立 20 周年です



アンデルセン公園で来園者と交流するオーデンセフォークダンスグループ

設立 20 周年記念講演会「16 冊のパスポート」と式典・懇親会

協会設立 20 周年の記念事業の一つとして、9 月 9 日（日）、講演会と式典・懇親会が船橋グランドホテルで開催された。



パソコンでスライドを操作しながら講演する小柳氏

講演会では大穴にお住まいの小柳和郎氏が、「16 冊のパスポート」と題し講演された。

小柳氏は現役で働いている頃、滞在・出張を含め 60 カ国におよぶ国々を訪れ、その結果、パスポートが 16 冊もたまったとのこと。

訪れた国々の中から、特に印象に残る異文化体験や交流体験をされた 5 カ国を選び、写真や、ご自身で描かれたスケッチのスライドを使いながら講演された。

多数の参加者は、ユーモアあふれるお話に、ほおをゆるめながら聴き入った。

講演で話された国々の他、触れなかった国々の体験が、ホームページ「交流ひろば」に掲載されている。

講演会後の式典では、井上会長の挨拶の後、藤代市長と村田市議会議員からお祝いのご挨拶があり、その後の懇親会には、近隣の国際交流協会役員の臨席も得て、和やかな歓談の輪が広がった。

広報委員 遠藤



懇親会で協会会員と歓談する小柳氏

20 周年を迎えて

会長 井上登喜弥

船橋市国際交流協会は1987年8月25日に設立され、お蔭様で今年20周年を迎えました。

設立以来めざましくまいりました市民主体の国際交流は、姉妹・友好都市との交流においても、また在住外国人との交流・支援活動においても、ようやく軌道に乗ってまいりました。20周年を機に、懸案であった市の国際親善ボランティア制度との統合も実現の運びと

なりました。

今年は船橋市の市制施行70周年にも当たり、10月の記念行事には姉妹・友好3都市から代表団・文化団体が来船し、会員の方々の多大なご協力を得て実りある交流を行うことができました。

今後とも関係各位、会員の皆様方の変らぬご支援とご協力をお願い申し上げます。



近隣国際交流協会役員の臨席も頂く



藤代市長より祝辞



井上会長挨拶



村田市議会議員より祝辞



鈴木さん(ピアノ)と加藤さん(サックス)の演奏



20周年記念事業

協会設立20周年記念誌発行に当たって



国際交流協会20周年を迎えるにあたり、協会設立以来の歩みを記念誌として纏めようということになりました。

協会の活動状況は、その都度市の広報等で紹介されてきましたが、'91年(平成3年)3月「国際交流協会ニュース」が創刊され、その活動が更に詳細に具体化された報道として発せられるようになりました。

当初、報道された活動のすべてを纏めようという案もありましたが、あまりにも膨大になりますので、広報委員の判断で抜粋し、ダイジェスト版にしました。

協会の歴史を振り返り、少しでも楽しんで頂けたり、更に活動を活発にしようと思われる方が居られたら嬉しいです。

広報委員 小山



《アンデルセン童話マラソン読書会》

アンデルセン童話を知っていても全部読んだ人は少ないのでは？

国際交流協会20周年を記念して、毎月1回、アンデルセン童話を1～2編ずつ読みきっていきこうとこの5月からマラソン読書会が始まりました。

毎回、協会会員の鈴木淑弘さんがアンデルセン童話や本に関する興味深い豆知識を話してくれた後、一人2ページずつ位を輪読していきます。「声に出して読み、人の語りを



聴くことで、その物語を皆で共有、共感できるのが輪読の楽しさです。読後は自由に感想を述べ合い、楽しく、和やかな雰囲気です。」と皆さん。一緒に読み直してみませんか。

毎月第4金・午後6～8時 船橋市女性センターで。

問い合わせは事務局または協会ホームページ www.fira.jp から協会宛メールで。

広報委員 小管

災害時外国人支援サポーター養成講座に参加して

怖いものとして、地震、雷、火事、親父というけど、日本にきた当初は地震の無い国(韓国)から来た私にはそんな実感はなかった。

在日 18 年の間に日本国内で起きた大きな地震を見てその恐怖は言葉に表せないものになっていった。

今までの当たり前のような生活ができなくなる、身内を失う、そんな恐ろしいことが同じ日本で起きているのに、自分のことじゃないから、船橋では地震が来たことがないからと安心をしている人達を多く見てきた。

今回、講座に参加して色々生の声を聞き、そして勉強していくうちに、いざとなったとき果たして自分に何が出来るのか色々考えさせられた。その中でも、文化交流グループとの体育館での避難訓練は貴重な体験だった。想定内のはずなのに、少ない人数なのに・・・暑い。そして長い一日に感じたのは私一人だけではないはず。



識を持ち、いざとなったとき、冷静に行動できるような気持ちを持ち続けることへの大切さを学んだ講座でした。みなさんありがとうございました。



丸山 金 基英

半日足らずのあの経験だが、これが、本当に地震が起きてみんなが体育館で大勢集まっていつ帰れるか分からない状況になったら考えると本当に大変だと思った。日本語が分からない外国人がその中に居て、私達にどれくらい手助け出来るのか、多くの問題を議論し問題点も色々発見した。有備無患、常に一人一人が危機意

市制施行70周年記念

姉妹・友好都市歓迎パーティー

船橋市制 70 周年記念にあたり、オーデンセ市、ヘイワード市、西安市の各姉妹・友好都市からの市の代表団及び文化団体と、これまで交流に関わった市民も参加し、10月20日(土)、歓迎パーティーが開催された。

会場の「プレシヤス船橋」には、380名もの出席があった。姉妹・友好都市からは、81名（オーデンセ市 37名、ヘイワード市 32名、西安市 12名）の多数に及んだ。

パーティーは、井上登喜弥実行委員長、藤代孝七市長の挨拶に続き、実行委員長の3カ国語による乾杯音頭で、国際色豊かな盛り上がりとなった。

会食・懇談後、4市のパフォーマンスは、自国の楽器演奏とフォークダンスなどで一層の交流が図られた。

広報委員 中谷



《姉妹・友好都市との交流》 10月19日(金)

～オーデンセ～

八千代市 野田節子

旧高根台第一小学校体育館はお祭りの衣装で着飾った特別支援学校の子どもたちが大きな拍手で民族衣装のオーデンセフォークダンス団を迎えた。

最初は絵本の中から出てきたようなデンマークのフォークダンスにびっくりしていた子どもたちも、



次第にリズムにあわせ手拍子をしたり、体でリズムをとったりとのお供で、最後にはオーデンセフォークダンス団の誘いを受け共にフォークダンスを踊りふれあいを楽しんだ。

フォークダンス団の皆様は特別支援学校のランチルームに招かれ給食を共にした。



姉妹・友好都市交流

《姉妹・友好都市との交流》 10月19日(金) つづき

～ハイワード～

指揮者ジョン・ロスコーさん以下 19 名のハイワード市「マリアッチ音楽バンド」が、高根台第2小学校を訪問し、子どもたちの英語による歓迎の言葉を受けたあと、素晴らしいメキシコ音楽を披露しました。

ハイワード市にはたくさんのメキシコ系市民が住んでいるようで、11歳のマルコ君と女性のガーデシアさんの2人は、メキシコスタイルの衣装を身に着けて歌い、体育館に集まった子どもたちを楽しませました。



その後、小学生たちも日ごろ練習をしているソーラン節の音楽にあわせた集団舞踊や歌を発表してから、訪問者全員に「和」と書き込んだ、周りに鶴の折り紙を貼り付けた色紙をプレゼントしました。



演奏後訪問団は3、4人に分かれ、教室で子どもたちと赤飯の給食を共にして交流をし、大変盛り上がりしました。

広報委員 田嶋

～西安～

西安華西専修大学芸術団が市立船橋中学校を訪問。

生徒たちが中国と日本の手旗を振り、芸術団の人たちを歓迎しました。

9歳から13歳の楽員による女子五楽坊の二胡、琵琶、揚琴、古箏をソロや全員で楽しそうに演奏する彼女たちを見て、船橋中の生徒たちは「上手。きれいな音。」と感嘆し、また、芸術団指導教師の揚琴と古箏の力強い演奏には会場が静かになるほど聴き入り、終始大きな拍手を送っていました。その後、船橋中の演劇部が「よさこいソーラン」を、管弦楽部が演奏を披露し、芸術団の人たちは「謝謝」ととても喜んでくれています。

昼には、芸術団の人たちは生徒たちと一緒に給食



を食べ、午後は管弦楽部と演奏を楽しむなど、素敵な交流会でした。

広報委員 小管



舞踏劇「アンデルセンの一生」

オーデンセフォークダンスグループのダンスショー

10月18日（木）、オーデンセフォークダンスグループのダンスショーが開かれた。勤労市民センター 大ホールは大勢の観客で盛況。



このショーはアンデルセンの生涯を、彼が立ち寄った各地のフォークダンスで表現している。



時には優雅に、力強く、楽しく、華やかに・・・3人の奏者の音楽に導かれ、民俗衣装を身につけたダンサーが舞台いっぱいに展開する場面に観客は手拍子で迎える。舞台と客席が一つになった。「舞台の上で、一緒にクルクル回ってみたい」と親子の感想。

閉幕後、ホールで向き合い、手を握りツーステップを踏んでいる2人の子。余韻を残したよい公演だった。



公演で得た記者の知識：アンデルセンの旅行カバンに長く、太いロープが入っている。その心は「ホテル火災の際、脱出に使うために」。

広報委員 坂井

カリフォルニア州立イーストベイ校への留学を終えて 1

~~~~~ 本町 荻原優美 ~~~~~

ヘイワードはさまざまな国からの移民者が多く大変国際色豊かな町。この立地は移民史にかねてから興味のあった私が勉強するのに最適な町でした。

授業では Ethnic Studies の中から Asian Studies を専攻しました。第二次世界大戦における日系収容の問題をクラスメイトとディスカッション、移民の経験のある人へインタビューを通して移民の歴史的背景とともに渡米時のビザの問題、渡米後の差別と偏見などの観点から調査をしてプレゼンテーションをしました。

クラスメイトや友人や先生に大変恵まれて、充実した日々をすごすことができました。



学部でお世話になった先生方との懇談会

また、ツルモト夫妻の移民の背景や経験などは大変貴重なお話でした。ツルモト夫妻には留学前後の受け入れのみならず、留学中のフォローをいただきました。

また、イースターの日にはホストファミリーのアニータさんからディナーにお招きいただきアメリカ文化にも触れることができました。

このような貴重な機会を与えてくださった現地姉妹都市委員の方々、船橋国際交流協会の方々に感謝しております。



日本語クラスの写真

## カリフォルニア州立イーストベイ校への留学を終えて 2

~~~~~ 金杉 瀬沼雄太 ~~~~~

アメリカは多民族国家であり、世界にはいろんな人がいるのだと感じました。



サッカー部のメンバーと前列左から2人目が筆者

短い期間でしたがサッカー部に所属していたことで、考え方やバックグラウンドが違う様々な仲間たちと同じ目標に向かって協力して頑張るという貴重な経験ができました。

また、ルームメイトの一人がゲイだったことで、日本ではめったに考えられない問題とも直面しました。



ハロウィンで

ハロウィンやクリスマスは日本のものとは全然違うなど、日本にいたのでは知ることができなかった多くのことを経験することができました。

この留学を通して、多少の考え方の違いはあっても国籍や肌の色は関係ないのだということを実感しました。また、アメリカ文化のなかで生活したことで、今まで気づけなかった日本のいいところに気づくことができたのも大きな成果でした。

ただ、国際交流という点で外国人に対して日本のよさを伝えることがあまりできなかったのは残念で、今後はこの経験を生かしたいと思います。

~~~~~ 西習志野 須藤 淳 ~~~~~

カリフォルニアでの9カ月間で最も感じたことは、多様性の素晴らしさである。以前アメリカ中部に滞在していたこともあるが、同じアメリカでもカリフォルニアは最も多様性が高いように感じた。

アジア、ヨーロッパ、中南米、アフリカなど、様々な国、地域からの移民や留学生の存在は、アメリカの歴史そのものであり、経済、政治の影響力の源泉であろう。



ヨセミテ国立公園にて、台湾出身の親友マイクと

留学期間を通して、何十という国からの友人ができたのは、良い経験であった。彼らの多くはアメリカ人という枠の中にいるが、異なるバックグラウンドを持っており、文化や価値観が異なる。だからと言って排他的になるのではなく、他の文化に寛容な環境が自分は好きだった。

「異質」なもの、人を受け入れる文化の存在は、その国の対外的な魅力につながる。日本の社会と米国の多様性を比較して、歴史の変遷を考慮すると仕方ないと思う一方で、留学は将来の日本のあるべき姿を考える良い機会となったと思う



森林公園にて、ベトナム人留学生の友人ロビンと

### お知らせ 1

#### 短期留学で新たな発見をしませんか

協会では、船橋市の姉妹都市、ヘイワード市にあるカリフォルニア州立大学イーストベイ校への短期留学生派遣を行っています。

今回18回目を迎え、これまでに40人以上の市民が留学生勝を体験してきました。

[応募資格]①昭和63年4月1日以前に生まれ高等学校を卒業、日本国籍を有し、船橋市に継続1年以上居住(本人が市外在住の場合、両親が船橋市に居住)。

②TOEFL525点またはiBT71点以上取得。

[募集人員]3人

[受入学部]芸術、文学、社会科学、経済、教育、科学

[選考方法]1次：書類審査

2次：面接(英語と日本語)

[選考日]平成20年2月24日(日)

[申し込み]平成20年2月15日(金)必着

所定の申し込み用紙で協会事務局へ。申し込み用紙は協会事務局で配布、またはHPからダウンロード可。

~~ 留学体験は自身の成長と新しい自分にきっと出会えるはず!! ~~

## ズームアップ

市制70周年記念事業で来船した、姉妹・友好都市の文化使節、64名が32家族に、10月19日から3泊4日のホームステイをした。

その中から、西安の2人の少女のホストファミリーをされた、坪井町の越智様ご夫妻宅でのホームステイの様子を伺いました。

### ホストファミリーになって楽しんだ市民交流

ホストの優さんは中国が好きで、これまでも日中交流活動をしてこられました。中国語が堪能であり、奥様の靖子さんもある程度話せるので、西安の人を希望され、高2と小6の2人の息子さんと共にホストをされました。以下、ホスト越智さんご夫妻のお話です。

~~~~~



2人の少女は、姚(ヨウ)さん12歳(琵琶の演奏)と、王(オウ)さん11歳(揚琴の演奏)で、最初のうちは緊張のせいか、話しかけても返事のないこともあったが、20日のアンデルセン公園での演奏会終了後は、ほっとしたのか、くつろいで見えた。

生活面では、起床、出発の時間などは、良く守ってくれ、わがままも言わないので、我慢させているのではないかと、かえって気になるほどだった。概して、はしゃいだり、ふざけたりはしないようだ。

食事に関しては、豚肉をたべない(イスラム教徒

坪井町 越智優・靖子夫妻

らしい)ということを受け入れの時に知り、一日目の夕食を急ぎょ外食にしたが、レストランでナイフ、フォークが出てきた時、使えなくて戸惑ったり、他の時にも、出した物を食べられないと言われて、急いで作り直したりというハプニングもあったが、あとはパン食を喜んだり、気持ちよく食べてもらえた。

入浴に関しては、浴槽の中で体を洗うので困ったということもあった。

買い物には、ゆっくりと付き合う暇はなかったが、家族にはソックス、友達には文具のような千円前後の物を買っていた。

3泊4日の日程は忙しいものだったが、21日は一日

フリーで、他のホストファミリーと共に、葛西臨海公園を訪れ、水族館、観覧車、海辺での遊びを楽しんだ。海のない西安の子どもたちにとって、海を見るのは、特に興味深いようだった。



~~~~~

これまでも色々と、日中交流活動をしてこられた越智夫妻だが、「この度は自分の子どもたちと年齢の近いお嬢さんを初めて引き受けて良かったし、今後も地道に交流をしていきたい。皆様も、もっと中国に関心を持ち、中国語を話す人が増えてほしい。」と感想を、熱心に語っていたのが印象深かった。

広報委員 中川

## お知らせ 2

### ♪ 2008 ニューイヤーパーティー ♪

#### 今年のテーマはフィリピン

フィリピン出身の方たちの自慢のトロピカル料理や伝統芸能を楽しみながら、新年を祝いましょう。

日時：平成20年1月27日(日) 12:00~14:30

会場：宮本公民館 定員：先着150人

申し込み：事前に協会事務局へ申し込み後(FAX可)、ゆうちょ銀行で参加費用振込。

申込書は事務局で配布。

### ★国際理解公開セミナー「イエメン共和国」★

モカコーヒーの産地としても有名なアラビア半島の南に位置するイエメン共和国。

日本貿易振興機構アジア研究所・研究支援部長を招き、イエメンの魅力を紹介していただきます。

日時：平成20年1月25日(金) 18:30~20:30

会場：中央公民館

定員：先着40人

費用：無料

申し込み：電話で事務局へ。

### 協会のボランティア活動に参加しませんか！

協会ニュースの発行や日本語教室、外国人相談窓口、外国人向け情報紙の発行。国際理解公開セミナーなどの催しの企画や運営もすべてボランティア活動です。

総務・広報・交流・姉妹都市・調査研究・日本語教室・外国人相談窓口・ようこそふなばしの8委員会が活動しています。

活動内容、問い合わせは事務局まで。

### あとがき

結婚を機に船橋市に転居して33年になる。

勤務の都合で家族ごと船橋を離れた期間は6年余あるものの、家族皆がフナッコ(船橋生まれ・育ち)であることに疑いはない。

最初の4年間は、当時数十メートルで海岸の若松団地であった。以後松が丘に移り現在に至っている。市制70周年は人生の古稀である。「人生七十古来稀なり」と唐の時代に杜甫が長安(現在の西安)で詠んだ詩であるが、姉妹・友好都市のひとつである西安と70年が重なった。

MS